

評価コメント

- ・肺音の喘鳴音の抽出にあたって流速に非依存性手法を確立したことは評価できる。
- ・無症状時の呼吸音解析で、喘息診断を可能とした点を高く評価する。これにより、喘息の早期診断、早期介入が可能となるが、その為に各地区の実用化に向けた工夫、ことに病診連携を含めた体制作りを発展することを期待する。
- ・深呼吸が出来ない乳幼児の呼吸音の異常を安静呼吸で異常がつかめれば大変有用である。
- ・聴診で正常と思われても、泣けば喘鳴がきかれるような例でも、安静時呼吸音で異常があると診断出来れば有用である。
- ・肺音図はこれまで一般に普及したことはなかった。技術的にもいろいろ克服すべき点は多いかもしれないが、もし臨床に供することのできる肺音図が完成すれば、臨床的にも応用範囲は広い。
- ・特に気管支喘息のような多彩な異常呼吸音を呈する疾患の病態や治療の効果の解析に利用できれば、その有用性は高い。
- ・肺音測定の際の問題を解決し、メサコリン吸入試験前後における肺音パラメーターの変化を解明した。
- ・乳幼児喘息の早期診断のための咳カウンターを作成し、測定による喘息特有の咳パターンが判明した。
- ・咳カウンター、肺音解析とも乳幼児期の喘息の客観的評価に有用な検査法であり、発症予防・増悪予防につながる研究である。
- ・咳カウンターは興味深い。今後、広く実用化されることを期待する。
- ・咳カウンターの開発はほぼ完成していると思うので、これを簡便に家でも使用できるようになれば、外来検査の一つとしてさらに有用であると期待される。
- ・咳モニター装置の開発と標準法であるVideo法との良好な相関が得られたことは一応の達成である。
- ・二相性咳嗽、三相性咳嗽の説明と、その成因についてふれてほしかった。
- ・咳カウンターは夜間の咳についてのパターン検査であるが、日中の咳の時間的パターンでは、鑑別は不可能なのか。

・これらにより小児喘息の健診事業に利用しうるもので評価できる。しかし、まだ臨床における発作の解析に用い得るか、また他の疾患での利用等について検討が必要ではないか。

・健康診査事業に広く汎用性がある機器として、両測定法が使用できることを費用の面を含めて、検討する必要がある。

・喘息鑑別診断としての気道過敏性の評価として、強制呼気検査が困難な乳幼児のみならず、高齢者にも肺音解析が適用できるのではないか。